

隔月刊コンフォर्ट

CONFORT

N° 192

2023年8月号 (No.192) 2023年8月1日発行 (年6回隔月刊1日発行) 発行人・専従役員／発行所・株式会社健康福祉研究所
〒171-0014 東京都豊島区世田2-3B-1 日蓮寺南ビル3階 tel:03-3986-3239 fax:03-3987-3256

定価：1,980円 本体1,800円＋税

水から、 ドラマチックに。

水にしか作れない感動がある。
水にしかできない癒しがある。
生きるためだけでなく、
暮らしの喜びのそばにも、
水は欠かすことができない。
だからあなたと水との出会いを、
もっと素敵に、ドラマチックに。
24時間365日、今日も世界のどこかで、
SANEIは喜びの瞬間をつくっています。

ALWAYS WITH JOY
SANEI



SANEI 株式会社 www.sanei.ltd
(資料請求番号 0015)

雑誌02831-08



4910028310837
01800

人々をテーブルに誘い、分断を超える対話を促す

第22回サーペンタイン・パヴィリオン リナ・ゴットメ〈À Table〉

取材・文／川上純子



1 ロンドン、サーペンタイン・サウス・ギャラリーの東側に竣工したパヴィリオン。最大直径21m。屋内には200㎡の空間が広がり、外周パネルの周囲を100㎡の回廊的デッキが取り巻く。屋根は緩やかに傾斜しており、天井高は中央が最大で4.4m、軒高は3.1m。2 モジュール組立・施工はロンドン五輪を始めクリエイティブな作品制作の実績があり、2009年からサーペンタイン・パヴィリオンを手掛けているステージ・ワンによる。部材は同社のヨーク州の工場で準備し、端材はバイオマスとして活用した。構造はAECOMが担当。3 最大幅17.5mの無柱空間。オーク材による家具はゴットメがデザインし、コンランショップが製作。4 夕暮れになるとランタンのように光を放つが、照明装置は訪問者の目に入らない位置に設置されている。1~4 Serpentine Pavilion 2023 designed by Lina Ghotmeh. ©Lina Ghotmeh — Architecture. Photo: Iwan Baan, Courtesy: Serpentine. 5 パヴィリオンの前に立つリナ・ゴットメ。©Harry Richards Photography / reportography.london

1	2
3	5

2000年の開始以来、ロンドンの夏の風物詩となったサーペンタイン・パヴィリオン。22回目となる今年のパヴィリオンを手掛けたのは、レバノン生まれでパリを拠点に世界的に活躍するリナ・ゴットメ。「未来の考古学」というテーマを掲げ、歴史や環境へのきめ細やかな探究を踏まえて設計を行う建築家だ。

作品タイトルは〈À Table (ア・ターブル)〉。フランス語で「食事ができたから、みんなテーブルに集まって！」と声を掛けるときのフレーズだ。「私が生まれ育った地中海文化圏には、大勢で食事を楽しみながらさまざまな話題について語り合う伝統がある。コロナ禍や戦争など、世界に多くの分断が生じている今こそ、1つのテーブルに集まり、食事し、対話し、心を通わせることの意義を建築で表現したいと考えた」とゴットメは話す。

周囲の木立と応答するように佇む木造の建物は、西アフリカ・マリのドゴン族の集会所「トグナ」を参照した、平たい小屋のような建築だ。ドゴン族といえば、30~40年代に仏の人類学者マルセル・グリオーが調査を行い、その豊かな宇宙観や芸術を名著『青い狐』『水の神』にまとめた。20世紀アートにも大

きな影響を与えたドゴン族の芸術文化や民族学研究への目配せは読み取るべきだろう。

集成材の柱2本で長い梁1本を支える部材(「F」を倒した形になる)を準備し、円の外周を描くよう放射状に並べ、梁の先端をスチール製リングビームにつなぐ。この構造により、200㎡の無柱空間を実現した。リングビームをETFE(フッ素樹脂)のキャンピで覆うことで屋内の中央に直径3.4mの天窗が形成され、柔らかな光が降り注ぐ。

内外はブライウッド製パネルによって隔られているが、合計8カ所の開口部およびパネルの透かし模様を通じて、心地よい風が常に流れている。また、揺れ動く枝葉のような透かし模様からは、木漏れ日のような光が射す。

梁に沿った装を持つ折り紙状の屋根は、俯瞰して見ると大地に舞い降りた大きな木の葉のようだ。透かし模様とともに、植物をモチーフとする意匠が、自然との融合を表象する。屋内にはゴットメのデザイン、コンランショップの製作によるオーク製テーブル27台とスツール57脚(ダークレッドに塗装)が置かれ、人々が涼み、会話を楽しむ場を提供する。透かしパネルの外側は屋根とデッキが張り出し

た回廊状のテラスとなっている。

ゴットメはオープニングのスピーチ冒頭で「私の建築設計は常に自然との対話から始まる」と述べたが、サステナビリティへの最大限の配慮も重要なテーマだった。

木材はすべてエシカルな供給源から調達した。主要な構造部材はスクリューボルトによる接合であり、繰り返し解体・組立可能だ。プレキャストのフーチング基礎もできるだけ小さくし、地面へのインパクトを低減。全体を撤去・再利用可能な軽量建築とすることで、カーボンフットプリントを最小化した。会期後は別の場所に移設される予定だ。

会期中はカフェの営業やイベント開催も行われ、1934年の竣工から60年代まではティーハウスだったというサーペンタイン・ギャラリーの建物の歴史にも立ち返る。

会場 サーペンタイン・サウス・ギャラリー
Kensington Gardens, London W2 3XA
会期 6月9日(金)~10月29日(日)
開館時間 10:00~18:00 休館日 火
入館料 無料 *会期中のイベント等は要予約。
詳しくは下記ウェブサイトを確認。
<http://www.serpentinegalleries.org/>